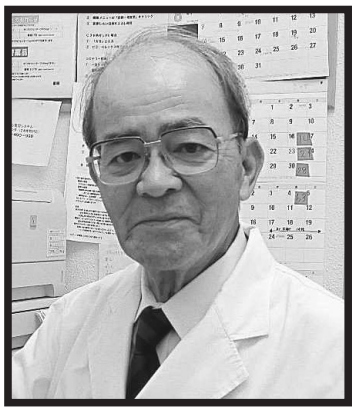
追悼

古謝景春 名誉教授を偲んで

－温故知新の実践－

琉球大学大学院胸部心臓血管外科（第二外科）
准教授　山　城　　聡（５期生）



胸部心臓血管外科（第二外科）教室の壁に『温故知新』の大きな書が掛けられています。古謝景春先生が退官されるときに教室へ寄贈してくださったものです。先達の教えを糧とするようにとの、古謝先生から我々への最後のメッセージなのでしょう。

古謝景春先生が、平成25年４月３日、ご自宅でご逝去されました。享年74歳でした。古謝景春先生が亡くなられたことが、未だ信じられず悲しい気持ちでいっぱいです。先生にご指導を仰いだものとして、謹んで追悼のことばを述べさせていただきたいと思います。

私は、卒業前に自分の進路として、迷い無く第二外科を選択しました。第二外科の先輩たちの颯爽とした振る舞いに単純に憧れ、入局したのです。そこに、古謝先生が鎮座していようとは思いもせず（実際は当時、古謝先生は助教授でしたが・・・）。独特の風貌に、独特の声。一切の妥協を許さない医局員への態度。怖くて顔を挙げることができない状況を後悔したことは言うまでもありません。おかげで、医局員は非常に強い絆で結ばれていたと思います。実際には、古謝先生は研修医を怒ることは決してありませんでした。

ただ怖かった古謝先生が、尊敬すべき優しい人であることを再認識させられたのは、入局後、半年たった頃のことです。受け持ちの末期心不全の方が亡くなった時に、電話でおそるおそる報告したのですが、古謝先生は直ぐに病室に駆けつけてくださり患者さんへ、『ありがとう、あなたは優秀な患者さんでした。』と声をかけていたのです。古謝先生の言動全ては患者さんのためなのです。

古謝先生が沖縄県の心臓血管外科の発展にご尽力なされ、優れた業績を残されたことは皆さんもご存じでしょう。特にBudd-Chiari 症候群の診断、外科治療に多大なる貢献をなされました。その功績は長く歴史に名を残すものであります。古謝先生は、常に患者さんと本気で向き合い、病気と向き合い、努力し続けていました。その情熱が、時に怖がられる結果となったのでしょう。

古謝先生は自分にも非常に厳しい方でした。昨年、２度の危篤状態から奇跡的な回復を遂げたときも、食事・リハビリなど妥協無く突き進む態度に感銘と感謝を感じています。抜管したその日に、体力をつけるためと、鰻を食べていた姿が貴方らしくて、滑稽にも思える一生懸命さに感動しました（主治医としては困ったことでしたが・・・）。私の意見をきちんと受け入れてくださったことを忘れません。『山城』から『山城くん』に昇格した時に、私もちゃんと第二外科の医者として認められていることを実感しました。古謝先生、あなたの最後の瞬間まで主治医でいられたことを誇りに思います。私は、かつて自分が憧れた先生達のように、学生・研修医が憧れるような医者になっているでしょうか？

これからも、先生の教えを忘れず、壁の『温故知新』の書を毎朝見ていきます。多くのお教えをいただきありがとうございました。先生の優れた業績とお人柄にあらためて敬意を表し、謹んでご冥福をお祈りします。

□ 経　歴

学歴（出身大学、卒業年度）、職歴

昭和39年３月
　千葉大学医学部卒業
昭和44年３月
　医学博士の学位授与（千葉大学）
昭和44年７月
　国立千葉病院外科（厚生技官）
昭和48年６月
　アルバータ大学外科研究員（カナダ）
昭和51年７月
　琉球大学保健学部附属病院外科講師
昭和58年４月
　琉球大学医学部第二外科助教授
平成９年９月
　琉球大学医学部第二外科教授
平成14年４月
　琉球大学医学部附属病院長
　琉球大学医学部附属病院退官
平成16年４月
　琉球大学法人理事（副学長）
　琉球大学名誉教授
平成17年６月
　嶺井第一病院名誉院長

平成25年４月３日 ご逝去